

## 「原爆文学研究」編集委員

岡村幸宣 川口隆行 楠田剛士 坂口博  
中野和典 長野秀樹 野坂昭雄 村上陽子  
山本昭宏（編集長） 李文茹

**編集後記** 今号には四本の自由投稿論文、二つの特集、詩を掲載しています。

特集「原爆文学」再読5——林京子「再びルイヘ。」は、今年九月に開催した研究会での議論を誌面化したものです。また、特集「四國五郎——表現と運動の軌跡——」は、今年一月に刊行された四國五郎『わが青春の記録』（全二巻、解説 有光健・川口隆行・四國光、三人社）の刊行に合わせて企画しました。

二〇一七年は、北朝鮮の核開発問題や、ICAN (International Campaign to Abolish Nuclear Weapons) のノーベル平和賞受賞があり、現代世界において核がいまなお喫緊の課題であることを認識させられました。本年は、原爆文学研究会にとって節目の年でした。そう思う理由は、以下の三点です。

第一の理由は、川口隆行編『原爆』を読む文化事典（青弓社）の発行です。本研究会でのこれまでの議論の成果を一冊にまとめることができました。ご協力くださった会員のみならず、まにこの場を借りてお礼申しあげます。

二点目は、九月に開催した韓国・大邱での国際ワークショップです。一国的な記述を越えて歴史や文化を見つめ直すという問題意識は、

これまでも本研究会で共有されてきました。韓国での国際ワークショップの開催は、その問題意識をより実りあるものにしていくための大きな一歩になると期待されます。

三点目としては、世話人体制の変更が挙げられます。中野和典氏と川口隆行氏に集中してきた会報・研究会誌の編集業務を交代制にしました。これは本研究会を続けていくために必要な方策だったと思っています。

こうして、私は初めて編集長を務めることになったわけですが、編集作業を初めてすぐに気がついたのは、作業の大変さでした。前編集長の中野和典氏を中心に、これまで編集作業に携わってこられたみなさまに、改めて敬意を表したいと思います。同時に、自分がこれまで寄稿者として関わってきたすべての雑誌を支えている人びとに対しても、感謝の気持ちが湧き起ってきました。編集の喜びと苦しみを味わうことで、本や雑誌への愛情が増したように感じながら、この編集後記を書いております。

本号の編集作業では、執筆者と世話人のみなさまに多大なるご心配とご迷惑をおかけしました。大袈裟かと思われるかもしれませんが、会員のみならず顔を思い出すことで、折れずに作業を終えることができました。ほんとうにありがとうございます。（山本昭宏）

## 原爆文学研究

16

二〇一七年二月三日発行

## 編集 原爆文学研究会

〒440-0600

福岡市城南区七隈八一一九—1

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

## 発行

（有花書院）

〒800-0211

福岡市中央区白金二一九—2

TEL 093-553067

FAX 093-554411

定価 一、二〇〇円（本体一、一〇〇円）

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。